

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3671600272
法人名	社会福祉法人 白寿会
事業所名	グループホーム 御所
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地1 (電話) 088-695-5533

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 ユニットA 5.5人, ユニットB 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円, 寝具リース費6,000円, その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	150 円
	または1日当たり ー 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人美摩病院 ・つかさクリニック ・うやま歯科医院
---------	-----------------------------

徳島県 グループホーム御所 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園地帯にあり、周囲には山や貯水池、竹林など自然豊かな環境がある。近隣には観光名所や温泉施設があり、高速道のインターにも近く交通の便にも恵まれている。また敷地内には特別養護老人ホームやケアハウス、在宅介護サービス事業所などがある。隣接する保育所とも行事などを通して相互交流を深めている。地域や家庭で暮らせることを念頭に置き、笑顔にあふれた家庭的なケアを目標に掲げている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「職員を育てる取り組み」、「災害対策」は改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」は改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はまず管理者が作成して全職員の意見を聞き、再度作成し直している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者、家族、地域商工会員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。主な討議内容はホームの活動や行事予定の報告、地域行事などの情報交換や情報収集などが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りに顔写真を入れて家族に利用者の様子を伝えたり、緊急時には電話で状態を知らせている。要望などについては直接話してもらえる関係づくりを心がけ、すぐに対応している。また重要事項説明書やポスターで公的機関に相談できる旨を明示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の清掃活動に参加したり、また近くの仲よし幼児センターの園児らが行事やグループホームの催し物に相互訪問したりしている。さらに小中学生の来訪や高校生がハーブ茶やコスモスなどを植えたプランターを持ってきてくれるなどしている。また地域協力員の来訪が月1回あり歌やゲームを一緒に楽しむなど地域との交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの機能の大切さを認識して全職員で話し合い、理念を新たに作成して玄関とホール内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の本質や作成した時の気持ちを忘れないように毎日のミーティングで確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の清掃活動に参加したり、また近くの仲良し幼児センターの園児らが行事やグループホームの催し物に相互訪問したりしている。さらに小中学生の来訪や高校生がハーブ茶やコスモスなどを植えたプランターを持ってきてくれるなどしている。また地域協力員の来訪が月1回あり歌やゲームと一緒に楽しむなど地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はまず管理者が作成して全職員の意見を聞き、再度作成し直している。前回評価での課題についても全職員で連携し改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、地域商工会員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。主な討議内容はホームの活動や行事予定の報告、地域行事などの情報交換や情報収集などが行われている。しかし開催頻度は6か月に1回となっている。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを持参して市町村窓口を訪問したり、分からないことを教えてもらっている。また地域包括支援センター職員の来訪もあり意見交換などにより連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに顔写真を入れて家族に利用者の様子を伝えたり、緊急時には電話で状態を知らせている。職員の異動も伝えている。また金銭管理も家族に報告してサインももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望などについては直接話してもらえる関係づくりを心がけ、すぐに対応している。また重要事項説明書やポスターで公的機関に相談できる旨を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。退職した職員が遊びに来てくれることもあり、離職などによる影響を軽減している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成して職員の希望や段階に応じた研修を実施している。法人内研修では利用者の具体的な課題を取り上げて実施している。研修内容は職員会で全員に伝達し回覧印もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉施設協議会のグループホーム部会に加入して各種研修会に参加することにより、同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にグループホームを訪問してもらい、雰囲気や生活状況などを知ってもらうなどして徐々に馴染んでもらってから入居に繋げている。入居後は一時帰宅などをしながら安心した生活を送れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や食器の片付け、洗濯物たたみ、掃除、花の水やりなどの役割を分担している。また柿茶やハーブ茶、紫蘇茶などを手作りしてお茶の時間を楽しんでいる。利用者一人ひとりのできる事ややりたい事を尊重して職員と協働して生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から行事の希望などを聞いて一覧表を作り、希望にそうよう企画し実施している。意思の伝達が困難な方は家族から意見を聞いたり本人の表情などを読み取りながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望、医師の所見、職員の意見などを聴取し、カンファレンスを開いて総合的に考え、介護計画を作成し、家族のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。またアセスメントはセンター方式を使用し、利用者の心身の状態を詳細に把握して状況に適した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり看護師が週3回、医師が月2回来訪して日常的な健康管理を行っている。事業所内にはゲストルームがあり家族も宿泊できるようになっている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を尊重し、要望に応じて通院などの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応の指針」、「看取り介護の指針」を作成している。本人や家族、医師、職員などが話し合い全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する文書を作成して掲示し、記録などは施錠できる書庫で適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候やその人の希望によって外出したり買い物や花の水やりを楽しめるよう支援している。また生活の中では誠実で静かな声かけが行われ、利用者はゆっくりゆったりと生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの山で採取した山菜を使い季節感を感じられるような料理作りをしている。利用者は食器洗いやテーブル拭きなどを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望時にいつでも入れるようになっている。一人ひとり入浴し、職員が見守るようにしている。季節によりゆず湯などを楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除などの役割がある。編み物やグループホームで飼っている犬の散歩などを楽しんでいる。また柿茶やハーブ茶、紫蘇茶などを利用者と職員が共に作りお茶の時間を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や希望により車が通らない自然豊かな散歩道を歩いている。希望者は職員と一緒に食材の買い出しなどに出かけている。また行事の年間計画を立てて近くのバラ園やハーブ園、山菜取りなどに行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、南側の玄関を開放して自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施し、その内1回は夜に訓練をしている。消防署と話し合い、災害時の集合場所を決めている。また非常災害時の備蓄も用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心身の状態によりキザミ食やとろみ食などを用意して食べやすいよう配慮している。食事や水分の摂取量を把握し、関連施設の栄養士に定期的に助言をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には近所の高校生が育てて持参してくれたコスモスやマリーゴールド、唐辛子苗のプランターが飾られている。外のベンチや廊下のソファ、ホールの畳スペースなどくつろげる場所が確保されており、一人でゆったりしたり気の合う利用者同士で語らうことができる。壁には季節感を出すために菊の花や花火の絵があり、利用者が見やすいように大きい日めくりカレンダーも掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使っていたダンスやテレビ、机、イス、布団などを持ち込んだり、家族の写真を壁に貼ったりしている。家庭で生活していたように自分好みに飾り、居心地よい居室づくりを行っている。		